

京都総評



京都地方労働組合総評議会：発行

第 264 号

発行所
京都市中京区壬生仙念町30-2 ラポール京都5階
京都地方労働組合総評議会（京都総評）
電話 075 (801) 2308 FAX 075 (812) 4149
E-mail sohyo@labor.or.jp URL http://www.labor.or.jp/sohyo/
〈発行責任者〉 梶川 憲 〈編集責任者〉 吉岡 勝

京都労働相談センター

電話 0120-378-060 E-mail scent@labor.or.jp

1

主な日程

- 2月16日(水) 消費税・社会保障宣伝 18:00 四条烏丸
- 2月18日(金) 争議支援・労働法制宣伝 18:00 四条烏丸
- 2月19日(土) 「19の日」行動 16:30 京都市役所前
- 2月22日(火) 最賃アップアクション学習会 19:00 ラポール京都

単産・地域代表者会議で春闘方針・知事選闘争方針を確認

大幅賃上げを 賃金底上げを

22春闘

1月29日に単産・地域代表者会議を開催し、22春闘方針と京都府知事選挙闘争方針、京都府知事選挙にむけた「京都総評の要求と提言(案)」を確認しました。

臨時大会を告示していましたが、コロナ感染が急増し、まん延防止等重点措置が発令された状況を踏まえて、感染防止を最優先にし、オンライン併用の単産・地域代表者会議に切り替えました。

会議には、20単産・18地域の代表、常幹団など58人が参加しました。14人が討論に立ち、22春闘・知事選挙勝利に向けた決意が語られました。

22春闘はコロナ禍から立ち上がる春闘

梶川議長はあいさつで、「コロナ禍から立ち上がる春闘。労働組合が姿を見せ、労働組合に入ろうと呼びかけてきたか、歴史的なたたかい」と22春闘の意義を訴えました。そして、①ベア

にこだわること、②賃金格差・雇用形態による格差をなくすためにたたかうこと、③雇用によらない働き方や解雇の金銭解決など働くルール破壊をゆるさないたたかいをすすめること、④最賃1500円・全国一律制度をめぐり取り組むこと、⑤岸田政権の改憲と「戦争しにくい国」づくりを止めるためにたたかうこと、の5点を強調し、22春闘と知事選挙を攻勢的に

賃上げめざし、奮闘する決意相次ぐ

討論では、「昨年以上の成果を勝ち取る春闘にすべし(京都放送労組)」、「福祉労働者の低賃金と長時間労働の改善めざしてたたかう(福祉保育労)」、「大幅賃上げめざして、ストを構えてたたかう(JMITU)」、「ケア労働者の賃上げを政府は言うが一桁足りない。4万円賃上げを要求して

全力でたたかおうと呼びかけました。



ケア労働者の賃上げを訴える

「たたかう」(医労連)、「フリーラ」(フリーランスの報酬10%アップを求めてたたく)、「出版労連」(出版労連)、など22春闘に向けた決意が語られました。また、

「コロナ禍から府民のいのちとくらしを守る対策の抜本強化」「賃金底上げと8時間働けばふうに暮らせる社会」持続可能な地域循環型経済の実現「労働者が安心して暮らせる社会へ」を柱にした「京都総評の要求と提言(案)」の実現をめざして全力でたたかうことになりました。

22春闘・知事選挙勝利へ全力を

知事選挙について、「コロナ禍から府民のいのちとくらしを守る対策の抜本強化」「賃金底上げと8時間働けばふうに暮らせる社会」持続可能な地域循環型経済の実現「労働者が安心して暮らせる社会へ」を柱にした「京都総評の要求と提言(案)」の実現をめざして全力でたたかうことになりました。

22春闘と京都府知事選挙を私たちの要求を実現するたたかいとして全力で奮闘する決意を固めました。

春闘方針などを提案する柳生事務局長



感染対策をとった会場で団結ガンバロウ



知事選挙

府民の手に府政を

2022春闘

京都総評の要求基準

- だれでも月額2万5000円以上、時間額150円以上の賃上げ
- 職場から直ちに時間額1000円未満の労働者をなくす
- 時間外労働の上限を週15時間、月45時間、年360時間までに
- 勤務時間インターバルを11時間以上おくこと

府民の手に府政を

自治体をみんなの手で

大型開発のツケを市民にまわすな！1・26市民集会

「医療や教育を無償で提供し、基礎的サービスを提供する、普遍主義が行政の責任。コロナ禍に敬老乗車証制度改悪や学童保育料、地下鉄料金の引上げなどをすすめている。市民に負担を



敬老乗車証守れと訴える年金者組合

「医療や教育を無償で提供し、基礎的サービスを提供する、普遍主義が行政の責任。コロナ禍に敬老乗車証制度改悪や学童保育料、地下鉄料金の引上げなどをすすめている。市民に負担を

最大の原因が、地下鉄など大規模事業であるにもかかわらず、

川総評議長が、「一緒に計画をストップさせよう。北陸新幹線推進ではなく、市民の暮らしを守る自治体を府知事選挙で府政を変え京都市政に迫ろう」と呼びかけました。

TUBUYAKI

非正規(パート)労働者のみで作っている労働組合が解散することになった。思うように組織拡大がすすまない、執行部の高齢化と次の担い手がなかなか見つからないという状況が続いていたがなんとか活動を続けていた。しかし、コロナでとどめを刺された▼多くの仲間が、「契約時間数をカットされて生活できない」と職場を去って行った。残った仲間からは、「労働組合費の負担がしんどい」と声が出された。執行部は苦渋の決断だったと思う▼パートタイム・有期雇用労働法では、同一企業内において、正社員と非正規雇用労働者との間で、基本給や賞与などのあらゆる処遇について、不合理な待遇差をもうけることが禁止された。しかし、パートタイム・有期雇用労働法には罰則規定がなく、多くの職場で均等待遇はすすんでいない▼長引くコロナ禍の中で多くの非正規(パート)労働者が退職に追い込まれたり、契約時間数がカットされて厳しい状況になっている。今こそ労働組合の出番だ。非正規(パート)労働者を労働組合に組織して、均等待遇を実現する22春闘にしよう。(M・I)

もっと生きやすい社会を みんなで

全国初の「コロナ禍雇い止め撤回」裁判に必ず勝利しよう！

全印総連京都地連、印刷関連ユニオン京都支部は、1月30日に、全国初の「コロナ禍雇い止め撤回」裁判での勝利判決をめざす市民集会を行いました。ジャーナリストの竹信三恵子さんの講演、弁護士の中村和雄さんの報告などを紹介します。

女性・非正規労働問題をともに乗り越えるために

ジャーナリストの竹信三恵子さんからは「非正規は今や企業の基幹労働力になっている。それを実際の仕事の重さとかかわりなく、非正規や女性は『安くても仕方ない』『クビを切られても困らない人』というレッテル差別をされている。それで本当にいいのか？」と訴えないといけない」と話されました。また、社労士会に問題提起するには、労働組合が声をあげ、世論・メディアを動かすことが非常に重要だと指摘されました。コロナ禍で声をあげて動かしただけは多くあり、「騒げば何とかなる」。しかし「コー

から沈黙するようにならあてはならない、と話されました。

「安心して働き続ける権利」を護るために

原告の弁護をされている中村和雄弁護士から



裁判の意義を報告する中村弁護士

は、コード争議の社会的意義について報告されました。「本件は雇用調整助成金特例制度利用中の雇い止め、会社側には雇用継続についてまった

く負担がなく、整理解雇の場合の解雇回避努力義務

1月30日

「コロナ雇い止め撤回」争議 勝利判決をめざす市民集会

務に明らかに違反する。政府は雇用調整助成金制度を拡充し、中小企業に100%補償することににより雇用確保をはかることとした。本件はこの制度の趣旨に真っ向から反するものだ」と話されました。本件たかひの意義として、コロナ禍で「雇用の継続確保」をどのように実現させていくのか、労働運動にとって労働者の「安心して働き続ける権利」を護る重要なたたかいである」と指摘されました。裁判は、次回4月11日が証人尋問です。5月中旬には結審し、判決は6月もしくは7月の見通しとなります。全国的にも注目の裁判を必ず勝利するため、引き続きのご支援をお願いいたします。

「非正規だから、コロナ禍だから」と諦めることなく裁判でたたかいてほしい」と力強くアピール。また、福祉保育の上木さんほか3人の方から連帯の発言がありました。すべての争議を勝利し、もっと生きやすい社会をつくっていきましょうと参加者のみなさんと思いを新たにしました。

地域に見える労働組合を

亀岡地労協

事務局長 片山 輝夫



参加者が行列ができた南郷公園の食プロ

んでしたが、「雇用調整助成金」や「休業支援金」の申請相談やシフト減による生活苦の実態など深刻な相談がありました。消費者物価が高騰しています。今春闘で賃上げが実現できなければ、私たちの暮らしはますます苦しくなります。4月には京都府知事選挙も行われます。

亀岡地労協は「地域に見える労働組合を」スロガンに、コロナ禍のなか工夫しながら地域総行動や、食料支援プロジェクトに取り組みしてきました。昨年食プロは3月21日、6月12日、9月25日、12月27日の4回開催されました。労働相談について、件数は多くありませんが、

亀岡地労協は1月21日に第66回定期大会を開催し、22春闘と京都府知事選挙の闘争方針も確認しました。府民のいのちと暮らしを守るため、「大幅賃上げ」と「府民に寄り添う府政」実現をセツトに、地域に見える労働組合の役割を果たすため奮闘する決意です。

今この憲法は良いものだと言っている。これを守りさらに強くしていく事が重要だ」と憲法の重要性を訴えられました。

力をあわせ、新署名の取り組みを

憲法9条京都の会世話人の小笠原伸児弁護士は「維新が憲法9条に自衛隊を明記するべきだと言



会場いっぱい集まったスタート集会

憲法を守り、さらに強くしていく

1月13日、ハートピア京都において「改憲ノー・新署名スタート集会」が開催され、現地参加74

「改憲ノー！新署名」を集めよう

改憲許すな！

基地が核兵器による先制攻撃の標的になる可能性もある」と、今置かれている状況を報告され、「国民の中で改憲が必要だ」という認識は低くなっ

てきている。6割の人が

「新装版」いつからでも やりなおせる子育て

西・右京地区労務局長 西村 健太

3人の子どもの子育てをしています。子どもたちのかかわり方で四苦八苦することが多くあります。保育士である妻は、そんな親子の姿を客観的にみていて、子どもとの関係性が上手いってないのかなと感じた時期に本を薦めてくれました。



わってきます。著者の池添さんはこの道の専門家ですが、専門的な表現は少なく、優しい文章で助言をするように実体験を交えて書かれています。とても読みやすい本です。この本を読んで、子どもの心発達を少しはふとこ

る深く見守れるようになった気がします。仕事が忙しく家にいる時間が短いため、父親が子育てに関わらない家庭はまだ少数とはいえ、現実。子どもに向き合うかけがえのない時間を大切にしたいと思わせてくれました。

書名：〈新装版〉いつからでもやりなおせる子育て
出版社：かもがわ出版
著者名：池添 素
定 価：1,210円(税込)

オンラインで講演する竹信三恵子さん

